



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



令和2年度 屋久島世界自然遺産地域等のモニタリング調査概要

屋久島森林生態系保全センター及び九州森林管理局で実施する令和2年度のモニタリング調査の概要についてお知らせします。

◎目的

世界自然遺産に登録された屋久島の森林生態系を適切に把握し維持していくため、科学的なデータに基づいた順応的管理を続けていく必要があります。

平成 11 年度から行っている垂直方向の植生モニタリング調査を引き続き実施するほか、各種モニタリング調査を行い、学識経験者等の意見を聴きながら遺産地域の保護・保全に資するものです。



屋久島北部地域 標高1,350m地点のプロットの概況

◎業務概要

1. 屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査

北部地域の垂直方向の植生モニタリングを行い調査結果をとりまとめ、今回と過去3回（平成17、22、27年度）との比較・分析し、予測します。

2. 高層湿原の植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討

- ・小花之江河に設定した調査プロットにおいて、植生保護棚内外のモニタリングを実施し動向予測を行い評価します。
- ・水域環境、土壌堆積量の分布面積、植生群落の分布状況を調査し地形図及び分布図を作成します。
- ・希少種ハベマメシジミの生息調査を実施し過去と比較・分析し評価します。
- ・高層湿原保全対策検討会を開催します。



上空から見た花之江河(無人航空機撮影)

3. 天然スギ林の現状把握

分布状況の把握と分布状況図の作成及び過去のデータと比較・分析し評価します。

4. 森林生態系における気候変動の影響のモニタリング調査

各機関のモニタリングデータの収集、気象庁アメダスによる気候変動等のデータの収集・分析等を行い、動態予測及び脆弱性の評価をします。

GW期間の縄文杉周辺マナー指導を実施

(4月29日～5月5日)

屋久島町・鹿児島県・屋久島観光協会・屋久島環境文化財団・環境省・林野庁等で構成されている「屋久島山岳部保全利用協議会」では、GW期間縄文杉周辺のマナー指導を今年も行いました。

当保全センターと屋久島森林管理署は、5月5日を受け持ちましたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため登山バス等の運行中止や来島への自粛要請の影響により登山者はいませんでした。例年5月の大型連休中の縄文杉登山者は3,000人～4,000人程度あるなかで寂しい状況となりました。

また、縄文杉周辺の植生保護のために設置しているシカ防護ネットに一部補修が必要な箇所があり、パトロールの合間、職員によって補修を行いました。

今後の状況によっては登山者も増えてくると考えられるので、安全で快適な登山が出来るよう定期的にパトロールを実施したいと考えています。

これから先、屋久島を訪れ登山される方々は十分な準備と体調管理を行い安全な登山に心がけるようお願いします。



職員によるシカ防護ネットの補修

有害鳥獣捕獲研修会を開催 (4月15日)

屋久島署と当保全センターでは、連携しながらヤクシカの捕獲をしているところです。令和元年度は職員実行により18頭を捕獲しました。また、委託事業や協定捕獲等を合計すると173頭を捕獲しています。

このような中、屋久島署会議室において、4月異動の転入者及び免許更新の必要な職員8名に対して有害鳥獣捕獲従事者研修を開催しました。

午前中の法令等座学研修に続いて午後からは、職員の技術向上を目的にくくり罠の実技の講習を実施しました。

実技講習では、全員が罠を設置し、設置のコツや安全な取扱い方法、電気止め刺し器の使用方法などの指導を受けました。また、本年度より導入する長距離無線式捕獲パトロールシステム(通称：ほかパト)の使用方法等についても講習を実施しました。

屋久島署及び保全センターでは、ヤクシカによる屋久島の貴重な森林生態系や農林業への被害を抑えるために、屋久島町、地元猟友会などの関係機関と連携しながら、本年度も職員実行と併せて委託事業や協定に基づくヤクシカ捕獲に取り組む考えです。



長距離無線式捕獲パトロールシステム(ほかパト)の説明



屋久島の植物 ヤマビワ (アワブキ科)

本州中部以南に分布する常緑小高木。屋久島では低地の林縁や林内で普通に見られる。伊勢神宮で神前に供える飯を炊く火は、ヤマビワの火きり杵とヒノキの火きり臼できり出す。和名は、葉が倒披針形で綿毛のあることが、ビワの葉の形状に似ることから。

屋久島のコマドリ (第3回)

—— 赤髭のコマドリと黒髭のアカヒゲ ——

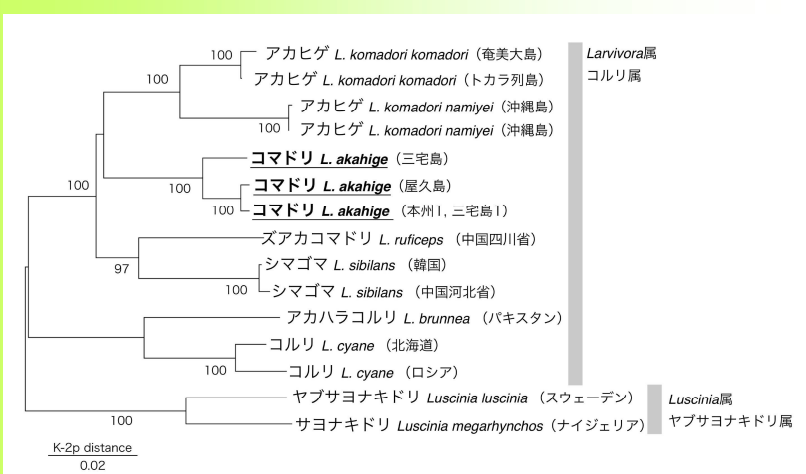
関 伸一 (国立研究開発法人 森林総合研究所 関西支所・生物多様性研究グループ)

コマドリの繁殖分布の南限は屋久島ですが、屋久島のすぐ南に位置するトカラ列島にはコマドリとごく近縁の鳥(姉妹種)、アカヒゲが生息しています(写真)。アカヒゲは琉球列島周辺地域の固有種で、国の天然記念物にもなっています。コマドリとアカヒゲの体型はシルエットにしたら区別できないくらいよく似ていますが、羽衣は全く異なります。コマドリの胸には顎髭かヨダレ掛けの様に赤い模様があるのに対して、アカヒゲの胸は黒いのです。どちらかという、赤髭なのはコマドリの方です。それなのにどうして黒髭風の模様の鳥がアカヒゲなのでしょう？一説には、アカヒゲの背中がコマドリよりも鮮やかな朱色なので「赤い毛の鳥」と表現したのが、訛ったり読み間違えたりしてアカヒゲになったとの説をとる文献が多い様です。



主にトカラ列島以南の地域で繁殖するコマドリの姉妹種のアカヒゲ

コマドリやアカヒゲをふくむコルリ属は、東アジアからヒマラヤ周辺の地域に分布し、冷涼地の森林で繁殖する渡り鳥が多いグループです(図)。コマドリも山地の針広混交林に生息する渡り鳥です。しかし、そんな属の中で、アカヒゲは島の照葉樹林に生息し、多くは渡りをせず留鳥として一年中同じ島にいます。大陸から日本列島周辺地域に隔離されてコマドリという固有種が生まれ、さらに琉球列島でアカヒゲという姉妹種が枝分かれしていった進化の過程はとても興味深いものです。島に隔離され、高い山のない島では温暖な照葉樹林に生息地を変え、渡りの有無などの生活史も変化する中で、集団が分化していったと想像されます。コマドリとアカヒゲは、アジアの東端に位置する日本という島国で固有種が進化した過程を考えさせてくれる面白い鳥なのです。屋久島はその2種の主な分布の境界に位置することになります。



コマドリ、アカヒゲと近縁種の系統関係(「遺伝子から解き明かす鳥の不思議な世界(一色出版)」の図をもとに改変)

さて、実は屋久島でもアカヒゲが観察されることがあります。最近の記録の多くは、アカヒゲが繁殖する春ではなく、繁殖期が終わりかけた夏から秋にかけてのものです。古くは屋久島でも繁殖していたとする文献もありますが、私自身は具体的な繁殖の記録を確認したことはありません。鳥類では夏から秋は、その年生まれの若い個体が分散する時期に当たります。若い個体は一般的な生息地や移動経路から外れた場所に迷い込むことが少なくありません。そのため、屋久島で観察されるアカヒゲの多くはトカラ列島などから移動してきた、繁殖していない個体だと推測しています。実際、足環をつけた鳥を追跡する鳥類標識調査によって、生まれた年の夏にトカラ列島から屋久島に迷いついたアカヒゲの移動例が確認されています。(おわり)

